



～お知らせ～

ようやく雪も和らいで来ました。年度末が近づき成果品納品の準備などでご苦労をおかけしています。

新聞を見ると3月13日からマスク着用を緩和し、個人の判断に委ねるようになるようです。ただし、感染防止のため高齢者などへの感染を防止するため混雑した場所などでは例外的に着用を推奨する事例なども明示されました。①医療機関の受診時、②医療機関や高齢者施設の従事者や訪問者、③通勤ラッシュ時など混雑した電車やバスに乗車する時・・・③では、概ね全員が座れる新幹線や高速バスなどは推奨しないそうです。当社としては、当面の間、関係者等と面談を行う場合には、マスクの着用を徹底してください。



さて、日本では、新しい年は1月から始まるのに「年度」は4月から始まります。その理由をご存知でしょうか。4月は国や多くの会社において予算の開始月となっており、さらには入社や入学の月としても位置付けられています。では、なぜ3月や5月ではなく「4月」とされたのでしょうか。今回は年度が4月から始まる理由についてご紹介します。年度の概念が導入されたのは明治時代以降のことで、初めて会計年度が定められた1869年（明治2年）がその始まりといわれています。その当時は4月始まり～翌3月までという期間ではなく、10月始まり～翌年9月までが年度単位とされていました。しかしその数年後に暦通りの1月始まり～12月までに変更され、その後また7月始まり～翌年6月までと変えられます。明治の初めころは年度の区切りが頻繁に変わっていたわけですが、4月始まりの年度となったのは1886年（明治19年）のことで、これ以降は大きな変更はなく年度が固定化されていきました。年度が4月始まりとなった理由には諸説ありますが、その一つは、当時の日本における主要産業は農業・米作であったから、という説です。江戸時代は米による税金（年貢）の納付でしたが、明治期に入ってから税金はすべて現金による納付が原則とされます。そのため、米の収穫を終え、それを売って現金に換え、それから納税するという手間が必要になったわけです。もし12月末を年度の区切りとすると、稲作の収穫から4カ月程しか経過していません。その間に、農家は米を換金して税を納め、国はそれをすべて処理して1月以降の予算を考えていくというのは、スケジュール上困難でした。計算上や経験上、余裕を持ってすべての作業を終えられるのは4月であることが分かり、そこで明治19年度から正式に4月～翌年3月までの期間が年度とされた、というのがこの説の見方です。ーHPよりー

ご挨拶



2月1日付けで入社しました馬場祐樹（ばば ゆうき）と申します。昭和62年生まれの新潟市東区出身・在住です。妻・二人の子の4人家族で現在育児奮闘中です。前職は地元の農協に約12年間勤務し、預貯金や共済、融資など各種取引を扱う渉外担当をしていました。前職でも登記簿や戸籍等にふれる機会はありませんでしたが、用地補償業務に関しては分からない事だらけで皆様にご不便ご迷惑をおかけいたします。今年、年男（うさぎ年）ですので仕事も私生活も飛躍する一年にしていき、いち早く皆様のお役に立てるよう尽力して参ります。何卒よろしくお願いいたします。

新規採用 2月1日付け

本社 業務部

馬場 祐樹

もうすぐ春です！ あとひと頑張り 頑張りましょう！

「ウィークリースタンスの徹底を」お願いします

- ①昼休みや16時以降開始の打合せは行わない
- ②休日明け日（月曜日等）は依頼の期限日としない
- ③休前日（金曜日）は新たな依頼をしない
- ④ノー残業デー（水曜日）は勤務時間外の依頼はしない



〇必見！ ホームページをリニューアルしました！ 新たな情報等があれば教えて下さい
www.hokurikuyouchi.co.jp

〇お願い！ 「Aipo」を活用しましょう